

# 新規石油由来のプラスチックをゼロに！



商品・サービス開発部の佐藤菜々子(左)と松本可穂(右)。



## Choosing Better

JALは、機内・ラウンジでお客さまにご提供する全ての使い捨てプラスチック用品について、新規石油由来の全廃を予定しています。

### 使い捨てプラスチック削減の取り組み

海洋汚染や生態系の破壊、ひいては地球温暖化にも影響を及ぼす物質——プラスチックごみ。日本の一人あたりの使い捨てプラスチック排出量はアメリカに次いで世界第2位であり(2018年の国連環境計画報告書)、私たちは一刻も早く対応することを迫られています。

JALはこれまで、資源循環型社会の実現に向けて、さまざまな領域で新規石油由来の使い捨てプラスチック用品についての見直しを行ってきました。機内サービスにおいては、2019年にプラスチック製のストローを紙製のものに置き換えるところからスタート(現在はバイオマスプラスチック製)。機内食に使用する食器やトレーマット、

### 高品質なサービスとSDGs実現のために

機内アメニティ類の包材や製品本体に至るまで、新規石油由来の使い捨てプラスチックの削減を一步ずつ進めてきました。国内外の空港の全てのJALラウンジでも、サービス形態や素材の変更によって対象となる21品目について新規石油由来の使い捨てプラスチックを廃止しました。

これまでを振り返り、プロジェクトに携わってきた商品・サービス開発部のメンバーたちは、「地球の未来のために使い捨てプラスチックの削減が不可欠とはいえ、既存のサービスの廃止はできる限り避けるべく、代替案の検討を重ねました」「環境に配慮した素材でありながら、お客さまにとって心地よく、現場のスタッフも扱いやすい素材

今回のテーマに該当する目標



を選定することに最も苦労しました」と話します。ここ数年、プラスチックの素材に対する機運の高まりを受け、持続可能な代替素材の選択肢が広がったことは大きな追い風になりました。

例えば機内でご提供しているスリッパに同封されている靴べら。JAL便ご利用のお客さまには革靴を着用される方が多く、アメニティの靴べらは「なくせないアイテム」のひとつでした。最終的には、JALUXとカネガが共同で製品開発を進めてきた100%バイオマス由来の「Green Planet®」製品を採用。この素材は国際線機内食の副菜用の容器、イヤホンなどの包装、機内販売のお買い物袋にも活用されています。

このように、メーカーやサプライヤーの皆さまと協力しながら、「リデュース(削減)」を最優先に、「リユース(再利用)」の促進、持続可能な代替素材への「リデザイン」、ペットボトルの水平「リサイクル」などの取り組みにより、

### ご利用いただけましたか? ラウンジで活躍する「おしぼりディスペンサー」

JAL国内線および国際線のラウンジにおいても、使い捨てプラスチックサービス用品の削減に取り組んでいます。その一環として、2023年から石油由来の個包装の紙おしぼり提供を「おしぼりディスペンサー」での提供に切り替えました。おつまみも個包装をやめ、お客さまにスプーンで取っていただくことでプラスチックを削減しています。ラウンジにお越しの際はぜひご利用ください。



2015年9月、全国加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。

